

福生市こども計画策定のための 子育て支援者ヒアリング

報告書

令和6年 10 月

福生市

1 趣旨

「福生市こども計画」の策定に当たり、特別な配慮が必要なこども・若者の状況や、必要な支援を把握することを目的として、関係機関職員へのヒアリングを実施した。

2 調査対象と調査方法について

(1)調査対象

市内にある次の対象施設に勤務する職員(合計7施設)

【対象施設】

児童館、こども家庭センター、児童発達支援センター、放課後等デイサービス事業所、日本語学校、こども食堂運営事業者、青少年自立援助センター

(2)調査期間・調査方法

調査期間	調査方法
令和6年7月11日～7月25日	福生市内の対象施設にヒアリングシートを配布し、記入してもらう。
令和6年8月14日～8月21日	ヒアリングシートの回答を集約し、必要に応じて対面式のヒアリングを実施した。

3 主な調査結果について

問3 施設に通うことも・若者を見て、年齢に応じて身につけておくべき「生きる力」について、気になることはありますか。

1. 生活面(身の回りの清潔、衣服の着脱、食事、排泄、睡眠等)について

- ・連日同じ服を着てくる子や、靴を左右逆に履いてくる子がいる。
- ・偏食や好き嫌が多く、野菜をあまり食べない子がいる。
- ・荷物の管理ができず、貴重品を置きっぱなしにする子がいる。
- ・食べこぼしが多く、食事のマナーが身についていない。
- ・生活習慣が確立されていない子が多い。
- ・保護者が忙しく、子どもに十分な時間をかけられない家庭がある。
- ・朝食を欠食する家庭が多い。
- ・児童一人ひとりの得意・不得意を認め、自己肯定感を育むことが大切。
- ・重いハンデを持つ児童には大人の介助が必要。
- ・偏食や食べ物を受け入れられない子が多く、職員が工夫して食べさせている。
- ・日本語学校の学生はアルバイトの影響で睡眠不足や精神的な影響を受けることがある。
- ・障がいのある子どもには、食堂での活動を通じて生活習慣を身につけさせる。
- ・着替えや入浴の頻度に極端な差がある若者がいる。
- ・睡眠に課題を抱える若者が多い。
- ・食事に関心が薄い若者もいるが、好き嫌いしない若者も多い。

など

2. 人と関わる力について

- ・ゲーム関連で喧嘩になるケースが多い。
- ・自分の空間に他の子が入ると怒る子がいる。
- ・自分本位の主張が強く、やりたいことができないと怒る。
- ・言葉遣いが荒く、ちょっとしたことで怒りやすい子が多い。
- ・SNSでのトラブルや家庭内での関係の希薄さが見られる。
- ・精神疾患を抱える親を持つ子や、複雑な家庭環境の子が多い。
- ・自分のことをうまく伝えられず、パニックや逃避につながることもある。
- ・知的障害を伴う自閉症スペクトラム障害の子どもが多く、人を意識しにくい。
- ・集団遊びを通じて人と関わる楽しさを体験させている。
- ・留学生同士のトラブルは少ないが、日本人と外国人の壁がある。
- ・食堂での活動を通じてコミュニケーション能力や自己表現力を身につける。
- ・人との関わりを求めながらも、適切な距離感を図れず悩む子が多い。

など

問4 施設に通うことも・若者を見て、「学ぶ力」をつけるためには、どのようなことが大事だと思いますか。

- ・色々な経験をさせることが重要。
- ・学習面では問題を諦めずに解くことが必要。
- ・ルールを守ることや探求心を持つことが大切。
- ・文章を読む機会を増やす。
- ・自ら学ぶ楽しさを感じるために、大人や友達との関わりが重要。
- ・認められたり褒められたりすることで興味が芽生える環境を作る。
- ・ハンデのある子どもには根気よく対応し、同じ対応を心掛ける。
- ・好奇心やモチベーションを維持し、外で学ぶことも大切。
- ・人に関心を持ち、共通の話題で心豊かにする。
- ・小さい頃から人と関わる経験を積むことが大事。
- ・興味関心の幅を広げるために、色々な経験をさせることが重要。

など

問5 こども・若者がライフステージの変化に円滑に適応し、不安なく新生活を始められるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。また、実際に行っていることはありますか。

- ・小学生事業で年齢の分け隔てのない環境を形成。
- ・幼児事業で子ども同士や保護者同士の関係作り。
- ・相談窓口など不安を解消できる場が必要。
- ・年齢や発達状況に応じた教育の提供。
- ・金銭面の不安なく進学や進路を決定できること。
- ・新社会人には生活能力が必要。
- ・関係者のつながりを支える環境整備と情報共有の場の構築。
- ・ハンデのある子どもには見通しを伝える工夫が必要。
- ・留学生は異国の環境に対応することが重要。
- ・日本社会を経験し、日本人と友達になることが必要。
- ・不安を言葉にし、相談できる力を育てる場所作り。
- ・成功体験や失敗体験を積み重ねることで不安を軽減。

など

問6 「家庭の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

- ・保護者が子どもの教育に関心を持ち、対話の時間を確保することが大切。
- ・子どもに様々な体験をさせるために、保護者が時間を作る必要がある。
- ・生活力の向上と、宿題などのサポートを両親や支援者が行うこと。
- ・情報提供方法を改善し、必要な情報を家庭が得られるようにする。
- ・保護者の孤立を防ぎ、子育ての悩みを相談できる場所を提供する。
- ・障害を持つ子どもを育てる不安を取り除き、社会が支えることを伝える。
- ・社会・教育機関の連携を強化する。
- ・親が社会のルールを守り、子どもに尊重の大切さを教える。

- ・親と子どもは別人格であり、過度な干渉を避ける。
- ・家庭だけでなく、地域や社会との繋がりを持つことが重要。

など

問7 「地域の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

- ・地域全体で子どもたちを見守り、教育するための具体的な行動計画を立てる。
- ・子どもが学ぶ場の提供や子ども食堂、無償で学べる場の充実。
- ・地域の関係者の情報整理と役割の発信、簡単に情報にアクセスできる仕組みの構築。
- ・保護者への情報提供方法の改善と地域資源の理解促進。
- ・行政、事業所、保護者、地域が一体となった取り組みの重要性。
- ・地域の現状を知り、疑問を持ち、体験し、様々な人と交流すること。
- ・スポーツや文化イベントを通じた交流の機会の提供。
- ・地域会館での異年齢交流や子ども会の再構築、民生委員・児童委員との連携。
- ・ボランティア登録制度の活用と地域の方々の参加促進。
- ・児童館、学童、幼保、学校との更なる交流と助け合い。
- ・保護者同士の情報交換による地域支援サービスの情報共有。
- ・顔の見える関係性を築く機会の増加と、地域の力を活用した整備された枠組みの構築。

など

問8 施設に通うことも・若者を見て、貧困、障害、外国籍など気になることはありますか。

- ・グレーゾーンの子が多く、多動性などの特性でやめたくてもやめられない場合がある。
- ・外国の方が入学書類の記入について相談があった。外国の方でも記入しやすい書類が必要。
- ・共働きやひとり親家庭が多く、家族で過ごす時間が確保できている。
- ・様々な問題が重複している家庭が多い。
- ・言葉の問題や発達障害を抱える外国籍の子どもが増えている。適切な支援が課題。
- ・文化や宗教の違い、教育方針の異なる家庭がある。
- ・発達の気になる子の発見が早まっているが、対応できる事業所が不足している。
- ・障害児施設では外国籍の子も受け入れており、平等に対応している。
- ・日本語能力の上達が課題。日本人と話す場が不足している。
- ・障がいのある子、外国籍の子も来てくれることに感謝。
- ・貧困世帯の参加を促すことが課題。
- ・就労において多くのスキルやコミュニケーション力が求められ、生きづらさを感じる人が増えている。
- ・適応障害や鬱などのメンタル不全が増加し、発達障害や精神疾患と診断される若者が増えている。

など

問9 施設に通うこども・若者の家庭環境や健やかな育ちについて気になること、また、その課題について必要な支援策は何だと思いますか。

- ・仕事が忙しく、子どもと共有する時間が取れない家庭がある。
- ・お姉ちゃんが下の子の面倒を見るケースがあり、ストレスを抱えている可能性がある。
- ・親が子どもを育てる際、自分が受けた育て方を参考にしているが、環境が異なるため配慮が必要。
- ・金銭面の援助の拡大が必要。
- ・家庭内だけで問題を抱えず、行政や学校、NPO 法人などと連携する。
- ・社会資源を正しく理解し、適切な支援環境を作る。関係者の連携が重要。
- ・心が安定する家庭が健やかな育ちに必要。家庭内のもめ事が子どもに影響する。
- ・親が悩みを吐き出す術を知らない。行政とのフランクなつながりが必要。
- ・外国人に対するステレオタイプが健やかな育ちの弊害になる。個人として見ることが重要。
- ・保護者の多忙による養育不足が問題。職場内保育所やこども食堂の導入が支援策。
- ・保護者が子どもから離れる時間を得るため、夜間保育所や学童の設置が必要。
- ・児童養護施設や里親への一時保護、ファミリーサポートの利用を促進。
- ・若者支援サービスの概要、利用者の特性と課題、支援の効果と課題、行政や他機関との連携が必要。

など

4 対象施設別調査結果について

(赤字：対面ヒアリング内容)

回答結果

問1 施設種別をお答えください。(いずれか1つに○)

1. 児童館 2. こども家庭センター 3. 児童発達支援センター
4. 放課後等デイサービス事業所 5. 日本語学校 6. こども食堂運営事業者
7. 青少年自立援助センター 8. その他()

問2 記入者をお答えください。(該当するものに○)

1. 施設長 2. 現場責任者 3. 現場職員 4. その他()

問3 施設に通うこども・若者を見て、年齢に応じて身につけておくべき「生きる力」について、気になることはありますか。

① 生活面(身の回りの清潔、衣服の着脱、食事、排泄、睡眠等)について

例) 偏食・好き嫌いが多く、方法が適切でない など

- ・連日同じ服を着て、児童館に遊びにくる子がいる。
- ・偏食、好き嫌が多く、野菜をあまり食べない子がいる。
- ・靴を左右逆に履いて来館する子がいる。
- ・施設内では、他の部屋へ移動する場合は、紛失防止などから自分の荷物を持っていくことがルールとなっている。しかし貴重品のスマートフォンやまた自分の荷物を置きっぱなしにしている子どもたちがいる。物の管理について意識が低い。
- ・食わず嫌が多い
- ・お昼やおやつを食べるときにテーブルの下に食べこぼしがある

② 人と関わる力について

例) 対人関係のトラブルが多い など

- ・ゲーム関連で喧嘩になるケースが多い。
- ・自分の空間に他の子が入ると怒り出す子がいる。
- ・自分本位の主張が強く、やりたいことがやれないと怒りだす。
- ・人との関わり方について身に付けていくこと(学ぶ)ことはとても大切なこと。
(人との関わりは、同学年や異学年、また大人など様々)
- ・言葉遣いが荒い
- ・ちょっとしたことで怒りやすい子どもが多い

問4 施設に通うこども・若者を見て、「学ぶ力」をつけるためには、どのようなことが大事だと思いますか。

例) 物事に興味や関心を持つこと など

- ・色々な経験を体験させてあげることが重要だと思う。
- ・学習面では時間をかけてでも問題を諦めずに解くことが必要。
- ・ルールを自分事として守っていく事。
- ・物事について、「どうして」とか「なぜ」とか探求心をもつようにする働きかけが大切である。
- ・文章を読む機会を増やす

問5 こども・若者がライフステージの変化に円滑に適応し、不安なく新生活を始めることができるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。また、実際に行っていることはありますか。

例) 未就学児は小学校入学、高校生・大学生世代の若者は新社会人 など

- ・小学生事業を通して色々な年齢の子ども達が交流することで年齢の分け隔てのない環境形成につなげている。
- ・幼児事業を通して子ども同士又、保護者同士の関係作り。
- ・相談窓口など不安を少しでも解消できる場があるとよいと思う。

問6 「家庭の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

子どもの悩みや課題を把握しておくことが重要と考える。

- ・保護者が子どもの教育について関心を深めることが大切。
- ・子どもに色々な体験をさせる為に保護者がそこに向かう為の時間が必要だと考える。
- ・子どもと保護者が対話する時間を確保すること

問7 「地域の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

- ・地域の方の顔をもっと知っていくための活動が必要だと感じる。
- ・地域の教育とは、地域として、そこに関わる子どもたちへの教育と考えます。地域として子どもたちに何を伝えたいのか、また学んでほしいのかを具体的に決めて行動していくのだと考える。
- ・様々な関係機関が協力・情報の共有を図り、地域全体で子どもの見守りをする

問8 施設に通うこども・若者を見て、貧困、障害、外国籍など気になることはありますか。

- ・障害の面では、グレーゾーンの子が多いように感じる。多動性などの特性によっては本人がやめたくてもやめられない場合があるなどのケースがある。
- ・過去に外国の方が、中学校や高校の入学書類に記入する内容について、相談があった。入学書類は漢字で記載されるところもあり、その意味がわからないので何を記入したらよいかの相談であった。このような経験から外国の方でも記入しやすい書類があったら良いと思った。
- ・共働きの家庭やひとり親の家庭が多いので、家族で過ごす時間が確保できているのか気になる。

問9 施設に通うこども・若者の家庭環境や健やかな育ちについて気になること、また、その課題について必要な支援策は何だと思いますか。

- ・仕事が忙しく、子どもと共有する時間がなかなか取れない家庭が見受けられる。
- ・保護者の代わりにお姉ちゃんが下の子の面倒を見るケースがあり、自分の時間が取れずストレスを抱えているのではないかと心配になる。
- ・親が子どもを育ていく上で、その育て方は自分が両親から受けた育て方を参考としていると考えられる。また子どもを取り巻く環境は、親が育ってきた環境とは異なっている。子育ての相談に向けたアドバイスは、このような点を配慮することが大切と考える。

回答結果

問1 施設種別をお答えください。(いずれか1つに○)

1. 児童館 2. こども家庭センター 3. 児童発達支援センター
4. 放課後等デイサービス事業所 5. 日本語学校 6. こども食堂運営事業者
7. 青少年自立援助センター 8. その他（ ）

問2 記入者をお答えください。(該当するものに○)

1. 施設長 2. 現場責任者 3. **現場職員** 4. その他（ ）

問3 施設に通うことも・若者を見て、年齢に応じて身につけておくべき「生きる力」について、気になることはありますか。

① 生活面（身の回りの清潔、衣服の着脱、食事、排泄、睡眠等）について

例) 偏食・好き嫌いが多く、方法が適切でない など

- ・本来身につけるべき生活習慣が幼少期より確立されていない。
- ・父や母などの養育者の仕事が忙しく子に時間をかけられなかったり、養育能力自体が低下していたりする。
- ・朝食の欠食が当たり前の家庭もある。
- ・保育園や小学校中学校等が家庭内の役割も担ってくれている現状もある。

② 人と関わる力について

例) 対人関係のトラブルが多い など

- ・SNS でのトラブル。
- ・家庭内で、母や父、兄弟などとの関係の希薄さ。
- ・母子関係や父子関係に課題がある子がみられる。
- ・父もしくは母が精神疾患等を抱えている。
- ・多子世帯やひとり親家庭やステップファミリーなど家庭環境が複雑なケースが多々いる。

問4 施設に通うことも・若者を見て、「学ぶ力」をつけるためには、どのようなことが大事だと思いますか。

例) 物事に興味や関心を持つこと など

- ・自ら学ぶことは楽しいと思うために、日頃から大人や友達との関わりが大切になってくると思う。

問5 こども・若者がライフステージの変化に円滑に適応し、不安なく新生活を始めることができるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。また、実際に行っていることはありますか。

例) 未就学児は小学校入学、高校生・大学生世代の若者は新社会人 など

- ・年齢や発達状況に応じた教育を受けられること。
- ・金銭面の不安なく、進学や進路を決定できること。
- ・新社会人は生活能力などが必要になってくると思う。

問6 「家庭の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

- ・生活力の底上げ
- ・小学校、中学校で課される宿題等について、両親や、両親にかわる支援者がみてあげること。
- ・両親がいる家庭については、家庭での教育の必要性を両親に理解してもらうこと。

問7 「地域の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

- ・子どもが学ぶ場の提供（金銭面の不安なく、学びたい子どもへの支援）
- ・子ども食堂や無償で学べる場の充実
- ・学校教育の充実

問8 施設に通うこども・若者を見て、貧困、障害、外国籍など気になることはありますか。

- ・様々な問題が重複している家庭が多い。
- ・言葉の問題に加え、発達障害等を抱える外国籍の子どもも増えている。適切な支援につながるものが課題。
- ・文化や宗教の違いに加え、教育方針についても異なる家庭がある。

問9 施設に通うこども・若者の家庭環境や健やかな育ちについて気になること、また、その課題について必要な支援策は何だと思いますか。

- ・金銭面の援助、拡大。
- ・家庭内だけで問題を抱えず、行政や学校、NPO 法人の団体等、それぞれの機関で何ができるのか考えていくことが大切と思う。

回答結果

問1 施設種別をお答えください。(いずれか1つに○)

1. 児童館 2. こども家庭センター 3. 児童発達支援センター
4. 放課後等デイサービス事業所 5. 日本語学校 6. こども食堂運営事業者
7. 青少年自立援助センター 8. その他（ ）

問2 記入者をお答えください。(該当するものに○)

1. 施設長 2. 現場責任者 3. 現場職員 4. その他（ ）

問3 施設に通うことも・若者を見て、年齢に応じて身につけておくべき「生きる力」について、気になることはありますか。

① 生活面（身の回りの清潔、衣服の着脱、食事、排泄、睡眠等）について

例) 偏食・好き嫌が多い、方法が適切でない など

児童一人ひとりで、出来る事、苦手なことが違う。出来る事、出来たことを伸ばす（ほめる）ことの積み重ねで、自分を認めること、他社から認められることで、自己肯定感を持つこと、持てることが大切のように考えます。

② 人と関わる力について

例) 対人関係のトラブルが多い など

自分の事や物事をうまく伝えられず、理解されず、パニックや逃避につながることもあるように思います。
児童の伝えられる表現方法を、周りの関係者が一緒に見つけていく事も大切のように考えます。

問4 施設に通うことも・若者を見て、「学ぶ力」をつけるためには、どのようなことが大事だと思いますか。

例) 物事に興味や関心を持つこと など

認められたり、褒められたりする中で、興味が芽生えるように思います。やってみたい、やってみようと思える環境を作ること大事のように感じます。

問5 こども・若者がライフステージの変化に円滑に適応し、不安なく新生活を始めることができるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。また、実際に行っていることはありますか。

例) 未就学児は小学校入学、高校生・大学生世代の若者は新社会人 など

色々な関係者のつながりの中で支えられるよう、環境を整えたいと感じます。情報共有の機会を作る連絡会や関係者会議等の場の構築が、さらに必要だと感じます。

問6 「家庭の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

情報をどこで得られるか、さらに分かりやすくなるとよいと思います。情報の提供方法や、情報の共有で、各家庭が必要な有効な内容を知る事が出来るとよいように思います。

問7 「地域の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

地域の関係者の情報が整理され、それぞれの役割が発信できれば、その時に必要な人が、必要な関わり等を持てるのではと思います。出来るだけ、簡単に情報等にたどり着ける仕組みがあるといいなと思います。
保護者への情報の在り方、地域の社会資源の理解促進について、センターの役割と機能を関係者に理解してもらうための取り組みが必要です。

問8 施設に通うこども・若者を見て、貧困、障害、外国籍など気になることはありますか。

発達気になる子の発見が早まっているように感じますが、その受け皿となる事業所を含め、対応できるところが足りていない。

問9 施設に通うこども・若者の家庭環境や健やかな育ちについて気になること、また、その課題について必要な支援策は何だと思いますか。

社会資源が、正しく理解され、必要としている家族・児童に、より適切な支援環境が作れるとよいと思う。但し、家族の思いとの乖離がある場合もあり、関わる人たちの連携により、誰かが家族・児童に寄り添える環境があると良いと考えます。
保護者や学校、他の関係機関との連携が重要です。

回答結果

問1 施設種別をお答えください。(いずれか1つに○)

1. 児童館 2. こども家庭センター 3. 児童発達支援センター
4. 放課後等デイサービス事業所 5. 日本語学校 6. こども食堂運営事業者
7. 青少年自立援助センター 8. その他（ ）

問2 記入者をお答えください。(該当するものに○)

1. 施設長 2. 現場責任者 3. 現場職員 4. その他（ ）

問3 施設に通うこども・若者を見て、年齢に応じて身につけておくべき「生きる力」について、気になることはありますか。

① 生活面（身の回りの清潔、衣服の着脱、食事、排泄、睡眠等）について

例) 偏食・好き嫌が多い、方法が適切でない など

重いハンディを持っている児童が対象のため、この質問の回答は難しい。全てにおいて、大人の介助を必要とする子ども達。支援する側としては、『生きる力（活力）＝食べる事』と考えている。食べる事に興味が無かったり、偏食の子が多く、見た目だけでNGを出す子が多々いる。決まったもの以外食べない子もいる。食べたくなければ残せば良いと考える保護者が多い。しかし、身を守る為にも食は大切だと思う。

偏食や食べ物を受け入れられない子がいて、職員が一口ずつ食べさせる工夫をしている。

② 人と関わる力について

例) 対人関係のトラブルが多い など

知的障害を伴う自閉症スペクトラム障害の子どもが多いので、人を意識する事は少ない。
自分の好きな遊びには集中するが、他児に手を出されると怒りを爆発させ、トラブルに発展する。
定期的に地域の方たちとの交流も図っていたが、言葉もなく通じ合えない事から地域の方たちの足が遠のいてしまった。

これからの人生、人と関わらなければ生きて行けないので、人と関わる事の楽しさの体験を積み重ねている。ただ、対人関係を構築するには、健常児の何倍、何十倍も時間が掛かかる。

集団遊びなどを通じて、少しずつ人と関わる楽しさを体験させている。

問4 施設に通うことも・若者を見て、「学ぶ力」をつけるためには、どのようなことが大事だと思いますか。

例) 物事に興味や関心を持つこと など

繼續。

ハンディのある子ども達は一つの事が出来るようになるまで、とても時間が掛かる。なので、毎日根気よく積み重ねていく事が大切だと考える。また、どの職員が対応しても子どもが戸惑わないよう同じ対応を心掛ける事が大事。

問5 こども・若者がライフステージの変化に円滑に適応し、不安なく新生活を始めることができるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。また、実際に行っていることはありますか。

例) 未就学児は小学校入学、高校生・大学生世代の若者は新社会人 など

不安は、見通しの立たない事から生まれる。ハンディのある子ども達は特にそうだ。

障害の度合いにもよるが、その見通しを伝える事・理解は難しい。

子どもたちは環境の変化に弱く、進級や進学の時期が大変なストレスになるので、なるべく環境の変化を最小限に抑え、見通しを立てやすいよう工夫をしている。

問6 「家庭の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

保護者と接していて、幼さと『孤立』を感じる。子育てをしてく上で大切な事を学ぶ必要がある。

子育ての前に親育て。

障害を持っている子どもを育てる不安を取り除き、社会が支える事を伝えていく。定期的な勉強会を開き、それを実体験してもらう。『取りこぼしなく』多くの人に…が大事。

社会・教育機関の連携も必須。

保護者の中には、子どもの障害を受け入れられない方や一般常識が欠けている方がいて、事業所と上手くコミュニケーションが取れない。

保護者自身が幼い面があり、子育ての仕方がわからない。

問7 「地域の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

発信。それぞれの立場・ポジションで発信し、その発信を共有する。そこから何が必要か見えてきた事を総合的に考え、行動に移していく。

子どもの健やかな育ちを支えるために、行政と事業所、保護者、地域が一体となった取り組みが重要。

問8 施設に通うこども・若者を見て、貧困、障害、外国籍など気になることはありますか。

外国籍の子も複数いる障害児施設なので、気になる事はない。

皆、平等。

問9 施設に通うこども・若者の家庭環境や健やかな育ちについて気になること、また、その課題について必要な支援策は何だと思いますか。

健やかな育ちに必要なのは、心が安定する家庭。家庭内でもめ事があると、それは子どもの心にすぐ反映する。

親は親なりの悩みを持っているが、それを吐き出す術を知らない人が多い。

もっとフランクに行政とつながる事が出来れば、変わると思う。

どうしても、行政は敷居が高いと思っている人が多いと感じる。

社会との関わりを深めていく事、社会が自分事として捉える（考える）事が必要だと思う。

回答結果

問1 施設種別をお答えください。(いずれか1つに○)

1. 児童館 2. こども家庭センター 3. 児童発達支援センター
4. 放課後等デイサービス事業所 5. 日本語学校 6. こども食堂運営事業者
7. 青少年自立援助センター 8. その他（ ）

問2 記入者をお答えください。(該当するものに○)

1. 施設長 2. 現場責任者 3. 現場職員 4. その他（ 学校長 ）

問3 施設に通うこども・若者を見て、年齢に応じて身につけておくべき「生きる力」について、気になることはありますか。

① 生活面（身の回りの清潔、衣服の着脱、食事、排泄、睡眠等）について

例) 偏食・好き嫌が多い、方法が適切でない など

日本語学校は母国の高校・大学を卒業した人、社会人経験をして日本に留学する人等様々です。東南アジアの学生は、ほとんどアルバイトをしています。深夜にアルバイトをし、その影響で睡眠時間が十分に取れず、授業に集中できない人もいます。生活は日本人と同じようにしていますが、文化や習慣、考え方の違いで精神的に影響が出る学生もいます。10代の学生はまだ母国でも一人で生活することはほとんどないので、日本人の若者と同じように考え方、視点もまだ成長段階の学生が多いです。

マナーの違いや勘違いから距離を置かれる。

良い職場環境では、上司が外国人社員とコミュニケーションを取る努力をしている。

② 人と関わる力について

例) 対人関係のトラブルが多い など

留学生同士のトラブルは、そんなに多くはないです。

アルバイト先は、介護施設、飲食業、コンビニ、物流、製造業等ですが、外国人と日本人の壁はあります。現場の教育がしっかりしている会社はそういうトラブルが少ないです。社員任せになるとどうしても、同じ国の外国人同士、日本人同士で固まってしまうことが多いようです。それは、地域社会でも同じなので、日本語学校における「人と関わる」ことは日本人と外国人がどうすれば交流できるか、理解し合えるか、支え合えるかを解決していくことだと考えています。

日本語が上手な留学生は日本人との交流が多くなる傾向にあるが、日本語の上達が思わしくない留学生もいる。

問4 施設に通うことも・若者を見て、「学ぶ力」をつけるためには、どのようなことが大事だと思いますか。

例) 物事に興味や関心を持つこと など

好奇心、モチベーションの維持。また、学校や教室だけでなく、外で学ぶことも大切だと思います。学生自身が自分にとって何が必要か、自分はどんな日本語を効率的に学び、それをアウトプットできる環境を作っていくか、自分で考えて成長していくことが重要になると思います。

問5 こども・若者がライフステージの変化に円滑に適応し、不安なく新生活を始めることができるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。また、実際に行っていることはありますか。

例) 未就学児は小学校入学、高校生・大学生世代の若者は新社会人 など

留学生もライフステージの変化はあると思いますが、日本語学校としては、まず異国という環境の変化に学生がどう対応していくかが重要だと考えています。

日本社会を経験すること、日本人と友達になって本当の「日本・日本人」を知ることが必要だと思います。実際に行っていることは、就職希望の学生は、その分野のアルバイトをして日本での仕事、考え方を徐々に身に付けています。そのまま内定がもらえることもあります。学校としては日本語サロンの実施、多文化共生フェスティバルの開催、高校生との交流等、様々な企画もしていますし、地域のイベントがあれば積極的にかかわるようにしています。

問6 「家庭の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

親が社会を知ること。時代の変化に合わせて学校だけでなく、家庭での教育もアップデートしていくこと。

問7 「地域の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

地域の現状を知ること、疑問をもつこと、体験すること、様々な人と交流をすることだと思います。

留学生と地域住民との交流は限定的である。

地域住民の多くは、外国人に対する関心が低く、イメージも偏っている場合がある。

スポーツや文化イベントを通じた交流の機会は設けられており、交流の成果が期待できる。

問8 施設に通うこども・若者を見て、貧困、障害、外国籍など気になることはありますか。

外国人なので、やはり日本語能力の上達が気になります。同時にそれを妨げている原因がなにかというのも気になります。言語習得は一人では上達しないので、日本人と話す場を一人一人に十分に与えられていないこと。地域の方に認知、理解が進んでいないこと等、こちらの反省も含めて気になっています。

問9 施設に通うこども・若者の家庭環境や健やかな育ちについて気になること、また、その課題について必要な支援策は何だと思いますか。

外国人に対するステレオタイプ（英語が話せる、異国から来て頑張っている、弱い立場、お金がない、犯罪が多い、マナーが悪い等）が健やかな育ちの弊害になることもあると思います。

具体的な必要支援策はわかりません。

少しずつでもその人を個人として見る。対等な立場で考えられるようになればいいと思っています。

回答結果

問1 施設種別をお答えください。(いずれか1つに○)

1. 児童館 2. こども家庭センター 3. 児童発達支援センター
4. 放課後等デイサービス事業所 5. 日本語学校 6. こども食堂運営事業者
7. 青少年自立援助センター 8. その他 ()

問2 記入者をお答えください。(該当するものに○)

1. 施設長 2. 現場責任者 3. 現場職員 4. その他(代表)

問3 施設に通うこども・若者を見て、年齢に応じて身につけておくべき「生きる力」について、気になることはありますか。

① 生活面(身の回りの清潔、衣服の着脱、食事、排泄、睡眠等)について

例) 偏食・好き嫌いが多く、方法が適切でない など

障がいがあったら、保護者が多忙で、こどもとゆっくり向き合えない状況があるので、せめて食堂に来ている時は、保護者の罪悪感等を減らし、みんなと一緒に準備や片付けを手伝ってもらいながら、みんなと御飯を食べて、できる事を一つでも身に付けてもらうように心がけています。

好き嫌い・偏食に関しては、長く通っているこどもは、いつの間にか食べられるようになった子もいます。また、保護者の会話の中で「仕事が終わってバタバタとお迎えに帰ったらご飯ちゃんと作るなんてムリー」・「早く寝てほしいのになかなかねてくれない」・「そうそう！うちも！私が先に寝ちゃうよー」・「おむつが中々とれない。めんどくさいからついトレーニング後回しに」みんな子育て頑張っているなーと日々思っています。

② 人と関わる力について

例) 対人関係のトラブルが多い など

食堂に来る子の中には、はじめ隅っこで一人で本を読んでいてもいつの間にか、みんなと遊び始める子が多いです。(一人でも来ることが楽しい子もありますが)、ここが普通の家なので緊張もすぐとけるのかもしれない。

とは言え喧嘩して泣いてしまう子もいます。私もですが、その子の親ではなくても中裁に入ってなぐさめたり、その子の親の怒り(?)をおさめたりし合っています。

そのようにお互いの助け合いで、トラブルを解決して行きます。

その経験が大きくなって大人になっても生かされるのではないかと考えています。

問4 施設に通うこども・若者を見て、「学ぶ力」をつけるためには、どのようなことが大事だと思いますか。

例) 物事に興味や関心を持つこと など

人に感心を持ってほしいと思います。その人がどんな考えを持っていて、どんなことが好きなのか等を知り、それにより自分の目標になったり、共通の話しができたりして心豊かにしてほしいです。
学校等でも学びますが、「人の気持ちを汲み取る」「寄り添える」等の若者にも大人にも大切な事だと思うので人と関わってほしいと思います。
食堂に来る子どもには、小さい内からこのような場所で人と関わってほしいと思います。

問5 こども・若者がライフステージの変化に円滑に適応し、不安なく新生活を始めることができるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。また、実際に行っていることはありますか。

例) 未就学児は小学校入学、高校生・大学生世代の若者は新社会人 など

不安なく新生活を始める事は、大人でもむずかしい事。不安を感じたら「何が不安なのか」「どうしたら不安が解消できるのか」を言葉にできる力。声に出して人に相談をできる力。周りの大人はそれを受け取るためのアンテナを高くする力等の「力」を育てる場所として気軽に相談してもらい、「ここに来れば助けてくれる」「ここで発散できる」と思ってもらえる場所作りをしています。
保護者が何か変化に対応しなくてはならない時それがこどもを巻き込むことであったら、落ちついてパニックにならないようにしてほしいです。」その為に食堂があります。

問6 「家庭の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

- ・保護者の孤立を防ぎ、子育ての悩みを吐き出せる人や場所を保護者が知る事。
- ・家庭のルールを設ける。例えば「携帯は何時まで」「起きる、寝る時間」等々。それを守れるように対話する。
- ・経済的な事…「生活するためには、何にいくら必要」「あなたの携帯代は何時間働いた金額」等 年令に応じて会話の中に取り入れる。
- ・親自身が社会のルールを守る。守ることの大切さを知る。
- ・お互いを尊重する。

問7 「地域の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

- ・地域会館等で異年令交流ができる場所に行ける事。
- ・子ども会の再構築 ・民生委員、児童委員との連携
- ・何年か前に市から「ボランティア登録の案内」をいただいた事があります。
得意な分野や、これならできる等の項目に「○」をつけたような記憶があります。
今も存在するかは分かりませんが、そのような登録(条件付き)を地域の方にしてもらい、子ども対象や親子イベント等スタッフとして関わってもらう。
- ・児童館、学童、幼保、学校との更なる交流。助け合い。
- ・保護者同士が情報交換することで、地域の支援サービスなどの情報を得ることができる。

問8 施設に通うこども・若者を見て、貧困、障害、外国籍など気になることはありますか。

- ・障がいのある子、外国籍の子も来てくれます。
 - ・気になるというより「来てくれてありがとう」という気持ちになります。
- いろいろな集まりに出て来てくれる、こどもを出してくれる事が大切だと思います。
- 「みんな違のが当たり前」「一人じゃないって事がわかる」と思ってもらえればいいと思います。
- ・貧困世帯の参加を促すことが課題となっています。

問9 施設に通うこども・若者の家庭環境や健やかな育ちについて気になること、また、その課題について必要な支援策は何だと思いますか。

①と重複しますが、保護者の多忙による養育不足から食やしつけ、教えてあげたい事があっても時間がない等日々の悩みがあります。毎日疲労を感じている。

金銭的にひっ迫していないとしても心がひっ迫している家庭もあります。

支援策…・職場内保育所等の増設。こども食堂等安価で食事が提供できる場所導入。

- ・保護者が時々子どもから離れてもよい時間を得る為、夜間の保育所や学童の設置
 - ・児童養護施設等の一時預かり。里親への一時保護等の情報提供。ファミリーサポートの利用。
- 預ける事、頼る事はいけない事ではない

問1 施設種別をお答えください。(いずれか1つに○)

1. 児童館 2. こども家庭センター 3. 児童発達支援センター
4. 放課後等デイサービス事業所 5. 日本語学校 6. こども食堂運営事業者
7. 青少年自立援助センター 8. その他（ ）

問2 記入者をお答えください。(該当するものに○)

1. 施設長 2. 現場責任者 3. 現場職員 ④. その他（事務局）

問3 施設に通うことも・若者を見て、年齢に応じて身につけておくべき「生きる力」について、気になることはありますか。

① 生活面（身の回りの清潔、衣服の着脱、食事、排泄、睡眠等）について

例) 偏食・好き嫌が多い、方法が適切でない など

毎日の着替え、洗濯、入浴について、極端な若者が多い。潔癖な部分があり、着替える回数や入浴回数が
多い、入浴時間が長いという者。一方で、汗をかいたりニオイがあっても気にならず、職員が着替えたか、
洗濯しているか、入浴したか、とマメに確認する必要がある若者もいる。

また、これは以前からではあるが、いろいろ考え過ぎて夜眠れない、寝過ぎるなど、睡眠に課題を抱える若者や睡眠導入剤を処方されている若者が少なくない。

食事面では、いわゆる当たり前の食事を摂らず、菓子や偏ったものだけを食したり、そもそもあまり食べることに関心が薄い若者もいるがそれは少数で、好き嫌いしない若者も多い。

② 人と関わる力について

例) 対人関係のトラブルが多い など

人と関われるようになりたい、友達がほしいと、人との関わりを求めながらも、一方で仲良くなっても自分のことを話し過ぎたと自己嫌悪に陥ったり、自分と仲良くなった人が他の人と仲良くしていると疎外されたように感じたり、気を遣い過ぎて疲れ果てたりと、適切な距離感を図れず、こんなに悩むくらいなら人との関わりを避ける、といった思考をする者が少なくない。

また、誘われたい、声をかけてほしい気持ちが強い一方で、本人の中で今じゃない、この人じゃない、頻度が多い、と感じると、断れないと悩んだり、イライラしたりと、対人関係や距離感について、思い描いている理想の他者との関係性と現実に折り合いがつけられない方が多い印象。

問4 施設に通うことも・若者を見て、「学ぶ力」をつけるためには、どのようなことが大事だと思いますか。

例) 物事に興味や関心を持つこと など

物事に興味関心を持つ前提として、やってみたい、もっと知りたいと思うきっかけが必要だと思う。興味のあることにしか関心を示さないという若者も多く、それは決して悪いこととは思わないが、興味や関心の幅が広がったり、やってみようと思えることが増えると、結果的に選択肢が増えたり、知識や関係性が深まったりすることに繋がると思うので、まずはいろいろなことを“経験”できる機会を増やすことが大事だと思う。そうすることで、自分の課題や得手不得手の輪郭がはっきりするため、自己理解が進み、何のために学ぶのか、何を学ぶべきなのか、が明確になること＝学ぶ力がつくことと思う。

問5 こども・若者がライフステージの変化に円滑に適応し、不安なく新生活を始めることができるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。また、実際に行っていることはありますか。

例) 未就学児は小学校入学、高校生・大学生世代の若者は新社会人 など

不安が強い人は何をしても不安はゼロにはならないと感じている。が、それらの多くは、経験不足や想像力の乏しさからきているように見受けられる。想定外の状況に対応し切れない、うまくいくイメージが持てないと不安が強くなるため、小さくてもよいので成功体験を積み重ねたり、想定され得る失敗体験をきちんと積んでおくことで、うまく行かなかった時にどのようにして乗り越えたのか、どうすればうまく行ったのか、といった経験が、新たな環境や挑戦の後押しとなると思う。

問6 「家庭の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

(専門外なので的外れかも知れませんが) 親であっても子どもは別人格。親の考えを押し付け過ぎたり、必要以上に干渉したり手を出し過ぎたりしないこと。家庭・家族は閉じた環境なので、なるべく外の風(多様な価値観、考え方)を取り込みやすく、受け入れやすい状態であるのが理想だと思う。そのためには家庭の中だけで何とかしようとせず、それぞれが地域や社会との繋がりを持つことが大事だと思う。

問7 「地域の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。

まずは顔の見える関係性を築ける機会を増やすことだと思う。ただ、地域との繋がりを一人ひとりの努力に委ねるのは正直厳しい。就学前・児の子どもがいたりすると、その機会はあるが、泣いたり注意したりする機会が多い子どもの親だと虐待と思われかねないかと地域の目を気にして関わりを避けることもあるだろうし、実体験からフルタイムで働いていたり、子どもがいない家庭はその機会が少ないと感じる。地域の力が強かった時代は個人の繋がる力や自己犠牲に近い個人やボランティアの力が強く、同時に繋がりを持たないと生きていけなかった時代。誰もが地域の一員であり、その集合体が地域であるが、今は地域＝オフィシャルな整備された枠組みをしっかりと構築することで、その中でそれぞれが役割を持って、地域に貢献できる、必要とされる環境を構築し、なるべく属人的な体制を作らないことだと思う。

問8 施設に通うこども・若者を見て、貧困、障害、外国籍など気になることはありますか。

特に就労する上で、仕事のスキルやコミュニケーション力など、一人の人間に多くのことを求められるようになったこと、長引く不況や労働環境の悪化によって体験機会の格差、貧困格差に繋がっているように思われるし、一様に臨機応変さやコミュニケーション力を求められることで、生きづらさを感じる人が増えたのではと感じる。つまりそれらは適応障害や鬱といったメンタル不全を生む温床となり、発達障害や精神疾患と診断される若者が増える要因になっていると感じる。

問9 施設に通うこども・若者の家庭環境や健やかな育ちについて気になること、また、その課題について必要な支援策は何だと思いますか。

サポートステーションや宿泊型集中訓練プログラムの多機関の連携に関する包括的な課題
支援策：若者支援サービスの概要、利用者の特性と課題、支援の効果と課題、行政や他機関との連携の必要性。